

## 「症例報告書」記載の手引き

記載もれ等不備があると審査対象にならないこともあるため、以下の点に注意して下さい。

- \* 所定の症例報告用紙（様式2）に1症例ずつ合計5症例を作成して下さい。
- \* 様式2は学会ホームページよりダウンロードして下さい。
- \* ワードプロソフトを使用して、1症例1000字以内で記載して下さい。図や表、写真も入れても構いませんが（字数にはカウントしません）、1枚に収まるようにして下さい。
- \* 5例の症例については、2例の義肢装具の症例は必須となります。その他は福祉用具や自助具製作症例でも構いません。
- \* 1症例ずつA4用紙1枚に記載し印刷して下さい。
- \* 報告書ごとに受験者氏名、症例の通し番号（1～5）を忘れずに記載して下さい。
- \* 申請書（払込金受領書添付の上）と、印刷した症例報告書計5枚を同封して、事務局まで送付して下さい。

### 【参考例】

症例番号： 1                      施設名： JSP 回復期リハビリテーション病院  
患者年齢： 60歳                      性別： 男

【診断名】 左下腿切断

【既往歴】 高血圧

【経過・病歴】 X年X月X日朝8時頃、出勤時に横断歩道を渡っていたときに右折してきた車と接触。左下腿を轢かれ、変形出血があったため救急車で前医搬送。下腿中央以遠の変形と出血が強く、保存加療が出来ないと判断され、同日左下腿切断となった。6週間後、創部も安定したことから回復期病院へ転院、リハビリテーション開始後に義足作製となった。

（出来るだけ簡易で）

【社会背景】 会社経営、妻と息子と3人暮らし

【評価】（身体所見や傷害の程度など）

切断長 膝下10cm 健側下腿長38cm

【作製した装具】（義肢）

下腿義足（骨格構造）、TSB式ソケット、に変更、シリコンライナー（ピンアタッチメントあり）、SACH足部                      （細かく内容を記載しても構いません）

【問題点】

短断端長であったこと                      （考察につながるような問題点を挙げて下さい）

【考察】

やや短断端ではあったが、ピン式下腿義足作製し、リハビリテーション後に独歩可能となった。途中、断端部の痛みと幻肢痛があったが、適切な疼痛コントロールが出来、歩行訓練を行うことが可能となった・・・。（など、問題点に対する解決法などの考察を記載して下さい）